



じゅんこ
園部淳子さん (26歳)
カーリング選手(チーム長野所属)

●プロフィール

【幼稚園・小学生】
親の勧めもあり、幼稚園の頃から小学6年生までスケートを続ける。小学生のとき、日ごろから利用していたスケートセンターで、カーリングの大会を目にした経験がある。「どんなスポーツなのかな」と興味深く見ていた。
【中学生】
興味本位でカーリング部に所属。魅力を感じ、熱中した。
【高校生】
現チーム長野のメンバー土屋由加子らと「チームカルテット」を結成。アルバイトを行いながら、練習を続ける。
【高校卒業後】
1997年に日本ジュニアカーリング選手権に初出場し、2位。以後ジュニア最後の年となる2001年まで、4年連続2位。その後も数多くの大会で2位だったが、2004年に第22回日本カーリング選手権に出演、初めて優勝し、大きな自信となる。さらなる飛躍を目指して、オリンピックでのメダル獲得を新たな目標に。高い意識を持って、日々のトレーニングに励んでいる。2006年世界選手権にてスポーツマンシップを称える賞「フランス・プロディ賞」を受賞。

何よりも好きな カーリング オリンピックで メダルを目指す

このコーナーでは、夢を持って生きている若者に焦点を当てて、その努力の姿を紹介しします。
今回は、近年ウィンタースポーツのひとつとして人気が上がっているカーリングの選手として、オリンピックのメダル獲得を目指す園部淳子さんを訪ね、お話を伺いました。

オリンピックにも出られるかも

カーリングとは、石を氷上に滑らせ、円の中心により近づけたチームが点を取るスポーツ。四人一組の二チーム対抗でゲームは行われます。近年、国際大会で日本代表チームが活躍していることもあり、日本でも人気が高まりつつあります。

日本のトップチーム「チーム長野」(注)に所属している園部淳子さんは、今年でカー

リングを始めて十四年目。中学一年のときにカーリング部に所属したが、その後の競技生活の出発点でした。「どの部活に入ろうか迷っていましたが、一年生を対象にした部活説明会で『頑張ればオリンピックにも出られる』と紹介しているのに興味がわきました。オリンピックといわれてももちろん具体的に考えることはできませんでしたが、やりがいがありそうと入部を決意したのです」
実際にカーリングを始めて、すぐにその魅力に熱中したとのこと。「氷の状況や相手の出方によって、作戦は刻々と変わります。その難しさと楽しさに魅力を感じました」
高校生になると、部活には所属せずに、中学時代の仲間などとメンバーを結成。学業に励む傍ら、活動費なども自ら捻出す

行いながら、現役生活を続けています。

国内から世界を視野に

そして臨んだ日本一を決める「日本カーリング選手権」。三年間は優勝には縁がなかったものの、二〇〇四年に、見事日本一となりました。

「優勝して何よりもうれしかったのは、支えてくれた人たちがみんな泣いて喜んでくれたことです。これまで自分たちも努力してきたとはいえ、日ごろから両親の励ましやコーチの指導、ボランティアとして多くのスタッフの協力がありました。また、企業の支援による専用のカーリング場があるからこそ、練習も行えます。多くの支援の輪があったからこそ優勝できたことに改めて気付きました。感謝の気持ちがわきました」

その後の大会でも二位が多いチーム長野ですが、今シーズンからは、意識を切り替え、

るため、練習の合間にアルバイトも行いました。「部員みんなで共通の通帳をつくり、遠征費なども積み立てました。現在でもこれは続けています。同じ目標を目指す者として結束も強まりますね」

カーリングを続けることを決意

高校卒業後の一九九七年からチームはジュニアの部(二十一歳以下)の最高峰の大会「日本ジュニアカーリング選手権」に出演。すぐに二位の好成績を残したものの、以後なかなか優勝することができませんでした。ジュニアの大会で四年連続二位となった二



世界を目標に取り組んでいるとのこと。

「これまで日本一ばかりを目指してきましたが、視野を広げ、世界で通用するチーム、ひいてはオリンピックでのメダル獲得を目指すことにしました。作戦もより攻撃的なものへと抜本的に変えました。新しい作戦の下では、これまで以上に力強く石を投げるのが求められるため、シーズンオフには、厳しい筋肉トレーニングにも励みました。その成果をぜひ出したいと思っています。今後の競技生活については、世界で活躍する各国の選手はほとんど三十代のため、私も状況が許す限りまだまだ選手生活を続け、技術を極めていきたいです」



園部さん(左から2人目)が所属する「チーム長野」のメンバー



氷上を掃いて、目的の箇所石を近づける。チームワークが必要となる

(注) カーリングのチーム
各都道府県のカーリング協会に所属。各地域で予選を行い、全国で9つのチームが日本カーリング選手権に出演。この大会で優勝すれば日本代表チームとなる。

園部淳子さんの
将来へのまなざし
「いつか経験を生かして、指導者としても世界を目指したい」

作文・小論文コンクールを実施

このコーナーでは、毎回、金融広報中央委員会（以下、金広委）の最近の取り組みや活動内容を紹介してまいります。今回は、中学生・高校生・教員を対象とする作文・小論文コンクールについてご紹介いたします。

金広委では、中学生や高校生に金融・経済に関心を抱かせ、また教員等の間で金融教育の在り方に関する議論を深めていくことを目的として、毎年、作文・小論文コンクールを実施しています。今年度は、中学生・高校生・教員の各部門とも昨年度を上回る応募があり、教育関係・金融関係の専門家の方々に厳正に審査いただいた結果、入賞作品を決定しました。

おかねの作文コンクール (中学生)

今年度で四十回を迎える「おかねの作文」コンクールでは、「私



のかねに関する体験を基に、感じたことを素直につづつたものや、自分なりの考えをまとめた

が会社を作るなら」、「私の活きたおかねの使い方」、「悪質商法の被害にあわないためのわが家の対策」など六つのテーマに沿って、全国の中学生から、昨年の三千六百六十二編を大きく上回る四千二百二十七編の作品が寄せられました。

第40回「おかねの作文」コンクールの特選・秀作の作品・入賞者

| | タイトル | 都道府県 | 学校名 | 氏名 (敬称略) |
|----|-----------------------------|------|-----------------|----------|
| 特選 | 私の夢 (金融担当大臣賞) | 東京 | 板橋区立西台中学校 | 大澤 友加 |
| | 夢の実現に向けて (文部科学大臣賞) | 京都 | 京都市立嵯峨中学校 | 竹内 遥 |
| | 「石川家の家訓」 (日本銀行総裁賞) | 愛知 | 安城市立明祥中学校 | 石川 明佳 |
| | 苦勞の末でできたお金 (日本PTA全国協議会会長賞) | 沖縄 | 浦添市立浦西中学校 | 益田 菜月 |
| 秀作 | 留学で考えさせられたお金 (金融広報中央委員会会長賞) | 三重 | 高田中学校 | 松本 恵 |
| | 「結構です。」 | 広島 | 呉市立吉浦中学校 | 渡辺 紗優架 |
| | ウマイ話にウラがある | 山口 | 山口大学教育学部附属山口中学校 | 布田 旭 |
| | 私のチュー・コク社 | 鹿児島 | 南さつま市立加世田中学校 | 中園 友美 |
| | たかが10円、されど10円 | 山口 | 山口大学教育学部附属山口中学校 | 山 明日美 |
| | 幸せとお金 | 新潟 | 上越教育大学附属中学校 | 陸 真由美 |

た作品が多く見受けられました。特選等の入賞作品を見ると、身近な経験から自分の将来を見据えて起業の構想を語った

もの、両親や留学時のホストファミリーのおかねに対する考え方から感じたことをまとめたものなど、力作が集まりました。

「金融と経済の明日」小論文コンクール(高校生)

「金融と経済の明日」第五回高校生小論文コンクールでは、「高齢社会・人口減少社会で生きていくには」、「社会に出て働くことの意味・意義」など五つのテーマについて、全国の高校生・高等専門学校生から、二千三百二十三編の応募がありました。



現代社会について、幅広い視野から問題点を調べて解決策を模索し、自分の生き方を真剣に考える作品が多数寄せられました。その中で、勤労体験を通じて働く意義を見出し、いく過程を述べた作品や、人口の高齢化や経済格差の拡大といった問題に取り組んだ作品が入賞しました。

「金融と経済の明日」第5回高校生小論文コンクールの特選・秀作の作品・入賞者

| | タイトル | 都道府県 | 学校名 | 氏名 (敬称略) |
|----|---------------------------------|------|---------------|----------|
| 特選 | 「神の見えざる手」 (金融担当大臣賞) | 京都 | 同志社女子高等学校 | 人見 陽子 |
| | 働くということ (文部科学大臣賞) | 岡山 | 岡山県立玉島高等学校 | 眞田 早紀 |
| | 問題解決の鍵となる女性労働者 (日本銀行総裁賞) | 東京 | 学習院女子高等科 | 青木 那奈 |
| 秀作 | 仕事を通じて学んだこと (全国公民科・社会科教育研究会会長賞) | 福岡 | 福岡県立折尾高等学校 | 大曲 咲希 |
| | 「仕事をすること」の価値 (金融広報中央委員会会長賞) | 静岡 | 静岡県立富士宮西高等学校 | 石川 咲子 |
| | 「働く」ということ | 広島 | 広島市立基町高等学校 | 風早 由望 |
| 佳作 | インターネット取引との付き合い方を考える | 千葉 | 東京学館高等学校 | 宮澤 麻里 |
| | 真の経済を支えるものは | 福井 | 福井県立藤島高等学校 | 山内 浩平 |
| | 高齢社会で生きていく | 福岡 | 福岡県立八幡高等学校 | 渡邊 悦子 |
| | 私が働く理由 | 大分 | 大分県立日田高等学校定時制 | 樋口 なつみ |

「金融教育を考える」第4回小論文コンクールの入賞作品・入賞者

| | タイトル | 都道府県 | 学校名 | 氏名 (敬称略) |
|-----|--|------|------------|----------|
| 特賞 | 起業教育から金銭の多面的価値を考える～株式会社「ナカちゃんプロジェクト」のCD販売を通して～ | 徳島 | 阿南市立平島小学校 | 島村 孝 |
| 優秀賞 | 体験と実際のお金の取り扱い、使い方を組み合わせた本校の金融・キャリア教育構想 | 香川 | 高松市立仏生山小学校 | 校長 古沢 博美 |
| 奨励賞 | 経済的に「選択」ができる生徒の育成～自覚・自立・自活を目標に～ | 神奈川 | 横浜市立市場中学校 | 力丸 剛 |
| | 「これからの時代に求められる金融教育のあり方」 | 愛知 | 愛知県立知立高等学校 | 清水 隆則 |
| | 「3年間を通しての金融・法教育実践事例」 | 山口 | 長門高等学校 | 吉田 栄次郎 |
| | 小学校社会科における金融教育のあり方について | 香川 | 観音寺市立作田小学校 | 田井 秀典 |
| | 「金融教育事始め」 | 熊本 | 熊本市立一新小学校 | 村上 浩一 |

「金融教育を考える」小論文コンクール (教員・研究者) 学校教員や教育関係の研究者を対象とする「金融教育を考える」第四回小論文コンク



ルには、金融教育に関する授業や地域行事を通じた実践の報告を中心に、二十五編の応募が頂きました。 地元の動物キャラクターをテーマにした合唱曲のCDを販売する起業教育の実践の紹介や、児童の家庭や地域社会と連携しつつ全学的に金融・キャリア教育を推進した報告等が入賞しました。

各コンクールの入賞作品は、金広委のホームページ (<http://www.shiruporuto.jp>) でご覧になれます。また、平成二十年二月頃には作品集も刊行する予定です。興味のある方は当委員会で、ご興味のある方は当委員会で、事務局(電話〇三三三二七三三、五三三)にお問い合わせ下さい。これらのコンクールは、平成二十年年度にも実施(六月頃募集開始)する予定です。多数の応募をお待ちしています。